
向こうの世界

チョコレート

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

向こうの世界

【コード】

N0214M

【作者名】

チヨコレート

【あらすじ】

中原舞と中原美月は仲の良い姉妹だった。

ある時舞がいつも通り学校から帰ったらあることを告げられる。

美月は死んだと。

ショックで家を飛び出して歩いていると美月と似ている人物をみかけて追いかけたら見知らぬ場所に来ていた。

そこで謎の少年に出会って…

プロローグ

「ねえ、お姉ちゃん人って死んだらどうなるの？」と幼い舞は姉である美月にきいた。

前から舞は人が死んだらどうなるのか、気になっていたのだ。

「この世界とはお別れして、別の世界に行くんだよ。」と美月は言った。

「別の世界に行ったら、行ってしまった人にはもう会えないの？」

「わからないよ。でも私達はずっと一緒にいられるといいね。」

「うん！お姉ちゃん、ずっと一緒にいられるように約束しようよ。」

「いいよ。約束ね、舞」

あの時はずっと一緒にいられると思っていた。
ずっと…

登場人物

中原舞

明るくて元気。

姉の事が大好き。

中原美月

優しくて頼りになる。

舞の姉で美人。

中原優子

舞と美月の母。

優しくて料理が上手。美人で若くみえる。

中原啓介

舞と美月の父。

手先が器用。

基本的には何をしててもダメな人。

でも顔は結構カッコいい。

シオン

舞が見知らぬ場所で初めてあつた人。

いろいろな謎な人。

色々と舞の手助けをしてくれる。

柚月

シオンの友達。

かわいらしい顔をしている。

普段はニッコリしていて優しいがきれるとこわい。

シオンと一緒に舞の事を助けてくれる。

〜エピソード1〜

「ただいま。」

舞はいつもと同じように普通に学校から帰ってきたのだった。

「…おかえりなさい、舞。」

舞は違和感を感じた、お母さんがいつもの優しい笑みではなく、ぎこちない笑みを返したからであった。

今日は家の様子がおかしい…

舞はそう思った。

それにいつもなら姉もお母さんと一緒に迎えてくれるはずだ。そう疑問に思っていたらお母さんは真剣な顔をして言った。

「舞、大事な話が…あるの。」

（何だろっ？）

と舞は思いながらソファーに腰かけた。

そしてお母さんは覚悟を決めたような顔をして言った。

「舞、気をしっかりして聞いて欲しいの。…美月が……死んだの、死んでしまったの。」お母さんは泣きながらそう言った。

お姉ちゃんが死んだ？

舞はお母さんの言葉が信じられなかった。

「何の……冗談？そんな冗談よしてよ、お母さん！！」

「本当…よ、美月の遺体が腕だけみつかった…のよ。」

「嘘だ！！」

舞は気がついたらお母さんに向かってそう怒鳴っていた。

「私、そんなの…そんなの…信じない！信じられないから！」
そういつて舞は家を出て走っていた。

（お姉ちゃん…が…死ん…だ。）

昨日まで一緒に過ごしていたはずの姉が亡くなったという事は舞にとっては信じられない事だった。いや、信じたくなかったのだ。舞はずっと走り続けていた。ふと止まってみるといたのだ。舞がよく知っている人物が…

向こうに…

舞は気がついたらその人物を追いかけていた。そして舞は呼んでいた。死んでしまったはずのあの人の名前を…

「美月お姉ちゃん!!」

くエピソードく

舞は追いかけてしようとした。

ある人物を…

だが、急に周りが静かになって舞は周りを見渡した。
舞は周りをみるなり驚いた。

見た事もない場所だったからだ。

「ここは…どこ？」

突然よくわからない場所にきた舞は恐怖におそわれた。

そんな時、急に足音がきこえてきた。

そつちを振り向くと人がいた…

見た感じは舞と同い年ぐらいのか少し年上ぐらいの少年だった。

少年は舞をみて驚いている様子だった。

驚きながら少年は舞に言った。

「何でお前みたいなのやつがこんなところにいるんだ！今すぐもとの場所へ帰れ！」と少年は怒鳴った。

舞は初対面で急に怒鳴られてムツとして言った。

「何で初めて会った人にそんなこと言われなといけないの！私はお姉ちゃんを追いかけていて気づいたらここにいたから帰り方なんてわからないわよ！」

「…お姉ちゃんを追って？」

と少年は考えこむようにして言った。

「そうよ！だいたいここって何処なの？」

「…お前みたいなの奴は知るべき場所じゃない。」
と少年は静かに言った。

「私みたいのが知るべき場所じゃないって…。まあいっか、私の名前は中原舞。あなたの名前は？」

「…俺の事はシオンって呼べ。みんなはそう呼んでいる。」

「それじゃあシオン、これから私はどうすればいいの？」

「それは…。」

シオンが何かを言おうとしたが少女によってさえぎられた。

「あゝ、シオンだ！その可愛い女の子誰？私達の新しい仲間？」

「いや、こいつは違う。何かの手違いで来たようだ。」

という感じによくわからない事をシオンと少女は話していて舞は不思議に思った。

（手違いっていったい何の事だろう？まあきいても何も教えてくれないさそうだけど…）

と舞は考えていると少女に話しかけられた。

「私の名前袖月は、あなたの名前は？」

少女の可愛らしい笑顔に舞はドキリとした。「私の名前は中原舞です。」

「舞ちゃんね〜。舞ちゃんにはこれから私達の家に来てこれからの事を考えよっか。」

「わかりました。」

「敬語じゃなくていいよ！じゃあ家へ行こう！」

舞は不安な気持ちがあったが、新しい出合いを嬉しく思っていた。そして姉の事も考えていた。

（また会えるよね…、お姉ちゃん）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0214m/>

向こうの世界

2011年1月28日13時12分発行